

平成23年11月10日(木)
在籍児童数第5校時
35名

- 1 主題名 仲よく、助け合って 内容項目 2-(3) 信頼友情
- 2 資料名 「がんばって」 (出典 埼玉県道徳教育指導資料集「きょうもげんきに」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、低学年の内容項目2-(3)「友達と仲よくし、助け合う。」ことをねらいとしている。この内容項目はおもに第3・4学年の2-(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」、第5・6学年の2-(3)「互いに信頼し、学びあって友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」に発展していく。

友達は、互いに関わり合うことにより心が通じ合い、そこに確かな友情が生まれる。それがあってこそ、心の安定が図られ、楽しい生活が送れるのである。友情を育むためには、自分から仲よくしようと相手に働きかける気持ちや、相手の立場に立ってその心情を思い、温かい気持ちで接することが大切である。幼児期の自己中心性がまだ残っている段階であるが、身近にいる友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さを実感できるようにしていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、学校生活に少しずつ慣れ、元気に生活できるようになってきた。休み時間には、すぐ校庭に出て遊ぶ児童が多いが、中には、友達と関わろうとせず教室で1人で遊んでいる児童もいる。意識調査では、殆どの児童が、「友達がいるよかったと思う時がある」と答えている。しかし、それは楽しく遊んでいるときに感じていることで、助け合う・励まし合うといった信頼感や友情を実感している子は少ない。「困っている友達がいたら、どうするか。」の問いには、「声をかける・助けてあげる・教えてあげる等」の反応があり、「友達にどんなことをしてほしいか。」の問いには、多くの児童が「助けてほしい。」と答えていた。「友達」に対する思いはあるが、なかなか行動に移せないのが実態である。このような実態を受け、本資料を通して、自分から仲よくしようと相手に働きかける気持ちや、相手の立場に立ってその心情を思い、温かい気持ちで接することが大切であることに気付かせたい。そして、友達と助け合う経験を積み重ねることによって友達のよさを実感させたい。

児童の実態を把握するために次のような意識調査を行った。

- | |
|---|
| ①友達がいて「よかったなあ」と思う時はありますか。 はい→33人
それは、どんなときですか。
・遊ぶとき(24人) ・お話するとき(3人) ・一緒に帰るとき(2人)
・励ましてくれたとき(1人) ・声をかけてくれたとき(4人)
・助けてくれたとき(1人) ・勉強するとき(1人) |
| ②入学してから、友達になった人はいますか。 はい→26人
どうやって友達になりましたか。
・友達になってと言って(15人) ・友達になってと言われて(6人)
・一緒に遊んで(5人) ・下校班で話を(1人) |
| ③あなたのまわりに困っている友達がいたら、どうしますか。
・声をかける(18人) ・助ける(7人) ・先生に教える(2人)
・その子と相談する(3人) ・優しくする(3人)
・応援する(2人) ・教えてあげる(2人) |
| ④あなたは友達にどんなことをしてほしいですか。
・遊んでほしい(17人) ・助けてほしい(3人) ・優しくしてほしい(3人)
・教えてほしい(2人) ・元気にあいさつしてほしい(2人)
・一緒に勉強を頑張してほしい(1人) ・家に来てほしい(1人) |

(3) 資料について

本資料は、主人公のたけしが困っている友達に声をかけることで、理解し合い、助け合うことの大切さを感じ取っていくという話である。たけしは、わくわくして初めての席替えの日を迎える。新しい4人グループのほかの3人は、みんな初めて同じグループになった友達である。先生の指示で自己紹介をすることになり、順番に自分の名前と好きなものを言うが、えりは顔を真っ赤にして小さな声でしか言えない。「大きな声で言って。」と言われ、ます

ます言えなくなったえりを見て、困惑するたけし。助けてあげたい気持ちでいるのだが、なかなか「がんばって。」と言えないたけしの気持ちは、えりと同じである。しかし、あと少しで言えそうなえりを見て、恥ずかしい気持ちを忘れ、(えりさん、あともう少し)と思わず心の中で叫ぶ。そして、「えりさん、がんばって。」と、力いっぱい応援する。えりは、その声を聞き、大きい声で自己紹介をする。笑顔になったえりに、「ありがとう。」と言われたたけしは、嬉しさと共に声をかけることができた喜びも感じる。

児童にとって、友達とは、楽しく学校生活を送るために大切な存在である。様々な場面で信頼感や友情を育んでいくことが大切である。今まであまり接点のなかった児童に対しては、なかなか声をかけにくいのが、初めて同じ班になった友達に「がんばって」と応援したたけしの言動に共感させ、身近にいる友達の気持ちを考え、仲よく助け合うことの大切さを感じ取らせたい。

4 研修主題とのかかわりと他の教育活動等との関連

「生きる力」をはぐくむ小中一貫教育の推進
 人とのかかわりを大切にし、共によりよく生きようとする子どもの育成
 (道徳教育を通して)

(1) 研修主題とのかかわり

〈「人とのかかわりを大切に」視点から〉

本時では、楽しく学校生活を送るために大切な友情を育む観点から、あまり話をしたことのない友達とも積極的に関わり助け合うことのよさに気付かせたい。

児童一人一人に自分の考えを持たせる工夫として、資料渡しでは必要に応じて場面絵を掲示しながら範読する。「がんばって」は、1年生にとっては少し長い資料と思われる、登場人物も多い。そのため、場面絵の助けを借りて児童に状況を把握させ、たけしの気持ちを考えられるようにしたい。

また、児童一人一人に自分の考えを表現させる工夫として、話し合いの中で役割演技を取り入れる。教師がえり役になり、児童にはたけしを演じさせる。主人公たけしになりきり、えりに対する思いや自分の思いを表現することで、友達と進んで関わり助け合うことのすばらしさを実感させたい。

終末では、「友達っていいな」と感じられる内容の児童の作文を紹介し、普段の生活の中で「友達と仲よく助け合う行為」が行われていることを知らせる。児童は、クラスには様々な個性を持った友達がいることに気が付き始めている。今まであまり関わったことのない友達とも積極的に関わり、お互いに助け合うことでより豊かな学校生活を送ってほしい。他の教育活動とも関連を図り、友達を大切にし共によりよく生きていこうとする意欲を持たせたい。

(2) 他の教育活動との関連

(4月 国語)
 幼稚園や保育園が違う友達と名刺交換をする。

(5月 生活)
 2年生と名刺交換をして、一緒に遊んだり、学校探検をしたりする。

(6月 学活)
 言われると嬉しくなる「ふわふわことば」があることを知り、自分の受け取り方を整理する。温かい言葉を進んで遣う肯定的な人間関係作りをする。

道徳の時間

(6月)
 資料名「こころはっぱ」
 友達と進んでかかわり、仲よくしようとする心情を育てる。

(10月)
 資料名「がんばって」
 困っている友達の気持ちを考え、共に助け合おうとする心情を育てる。

(1月)
 資料名「二わのことり」
 友達と仲よく助け合っているようしようとする心情を育てる。

(学級活動)
 お楽しみ会などで、グループや全員で遊んだり協力して活動をしたりする機会を設ける。

「ありがとうの木」に、友達にしてもらって嬉しかったことを書き掲示していく。

(帰りの会など)
 進んで温かい言葉をかけたり手伝ってあげたりして、友達と仲よく助け合っていた児童を紹介する。



家庭との連携

学級通信で授業内容を知らせる。また、家庭でも友達のことを聞いたり、保護者の体験を話してもらったりなど、児童が友達と仲よく助け合うことの大切さを感じ取れるような機会をつくってもらおうようにする。

- 5 本時のねらい
困っている友達の気持ちを考え、共に助け合おうとする心情を育てる。

6 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆◇評価 (評価方法)	時間
導入	1 「席替え」をした時の気持ちを思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> 誰と隣になるかわくわくする。 近くの子と仲よくできるか、どきどき。 〇〇さんと隣になれるといいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 席替えをした時のことを想起させる。 今まであまり話をしたことのない友達と席が近くなることもあることに気付かせる。 	1分
展開	2 資料について条件状況を知り、教師の範読を聞く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○登場人物：主人公…たけし 相方…えり かなこ、まさお</p> <p>○スタートの条件・状況 初めての席替えの日、たけしは同じ班の友達と自己紹介をする。しかし、えりの声が小さくて聞こえない。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> えりさん、どうしたのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 主人公たけしの気持ちになって聞かせるようにする。 ◇話の内容や状況が分かりやすい資料渡しができたか。 (観察) 	9分
	3 「たけし」の気持ちを中心に話し合う。 (1) 困った顔をしているえりを見ていて、どうしていいかわからないたけしの気持ちはどんなのでしょうか。 (補) 大きな声が出せないえりは、どんな気持ちでいるのでしょうか。 (2) 悩んでいたたけしは「えりさん、がんばって」とはっきり言えたのでしょうか。 (3) 「たけしさん、ありがとう」と言われた時	<ul style="list-style-type: none"> どうしよう。 助けてあげたいけど。 あまり話したことがないから、何て言ってもいいかわからない。 頑張ってるけど、ぼくが何かしていいのかな。 えりさんは、きっと困っているな。 恥ずかしいからいやだな。 笑われたら、どうしよう。 でも、声が出ない。(もっと大きな声でと言われた) 大丈夫だよ。かなこさんがやさしく声をかけてくれたから。 えりさん、あと少しだよ。 ぼくも、応援しているよ。 みんな応援しているから自信をもって。 もうちょっとでみんなに聞こえるよ。 「ありがとう」と言われてうれしい。 言えてよかったね。みんな友達だ。 ぼくたち、友達になれたね。 えりさん、がんばったね。 ぼくも、温かい気持ちに 	<ul style="list-style-type: none"> あまり話したことのない友達が困っている姿を見てどうしてよいかわからずにいるたけしの気持ちに共感させる。 場面絵を用い、たけしの表情からどんな気持ちが読み取れるか考えさせる。 えりが困っている理由についても考えさせ、次の柱へつなげられるようにする。 あと少しで言えそうなえりを見て、恥ずかしい気持ちを忘れ、応援したたけしの心の中を十分に考えさせる ☆思わず「がんばって」と言ったたけしの気持ちを考えることができたか。 (発言・観察) えりにありがとうと言われた嬉しさと共に、声をかけることができた喜びを感じ取らせる。 ペープサートを用いて役割演技を行い、児童がたけしになったつもりで考えられ 	28分

		<p>なったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達がいたら応援するといいね。 ・温かい気持ちでいると、友達になれるね。 	<p>るようにする。</p> <p>◇役割演技は児童の考えを深めるために効果的であったか。(発言・観察)</p>	
見 つ め る	4 自分の生活を振り返り、これから友達にしてあげたいことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていたら、「どうしたの」と声をかけて助けてあげたいな。 ・1人でいたら「遊ぼう」と誘ってみよう。 ・あまり話したことがない子にも「遊ぼう」と言っ てあげたいな。 ・自分も、たけしさんみたいに、友達を助けてあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの生活を振り返り、これから友達にしてあげたいことを考えさせることにより、意欲を持たせる。 <p>☆今までの生活を振り返り、友達にしてあげたいことを考えることができたか。(発言・観察)</p>	5分
終 末 あ た た め る	5 児童の作文を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達っていいな。 ・これからも、友達と仲よくしよう。 ・ぼく(わたし)も、作文の子みたいに友達とがんばりたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達と一緒にだったからがんばれた」という内容の児童の作文を読む。 <p>◇友達と仲よく助け合うことの大切さを感じさせることができたか。(観察)</p>	2分

7 評価の観点

- ☆困っている友達を見たら、応援したり優しい心で接したりすることの大切さを学ぶことができたか。(発言・観察)
- ◇それぞれの場面の心情や気付きを表現するために、ペープサートや役割演技は効果的であったか。(発言・観察)

8 板書計画

「たけしさん、ありがとう。」

場面絵3
うれしそうなたけし

・えりさんがよろこんでくれて、うれしな。
・いってよかったね。
・ともだちになれたね。
・ぼくも、あたたかいきもちになったよ。

「えりさん、がんばって。」

場面絵2
応援しているたけし

・だいじょうぶだよ。
・ぼくもおうえんしているよ。
・もうちよつとだよ。
・みんながおうえんしているよ。

「えりさん、あともう少し。」

場面絵1
グループ

どうしていいかわかりません。

困っているたけしの顔

・どうしよう。
・たすけてあげたいけど。
・なんていつたらいいんだろう。
・はずかしいな。

がんばって

たけし
えり
まさお、かなこ

ともだちっていいね